

交野ヶ原南部

源氏の滝 夜泣き石

源氏の滝は交野市倉治にある18mの滝で古くは修験の滝として人々に知られていました。この滝を舞台とした「夜泣き石」という悲しい物語が残っています。



その昔、山賊が源氏姫

と梅千代という少年を攫いました。梅千代は道中で絶命し、悲観に暮れた源氏姫は山賊の女頭領の胸を刺します。その女頭領は、源氏姫と梅千代の生き別れた母親であることを死の間際に告げ、源氏姫は絶望して源氏の滝壺に身を投げ母親と弟の後を追いました。

それ以来、滝近くにある石が夜になるとさめざめとすすり泣くそうです。心霊スポットと紹介されることもありますが、清涼な滝音と木々に囲まれた素敵な場所ですよ。

交野市東大字倉治。JR津田駅から徒歩28分。

日本鉄文化 森遺跡

森遺跡はJR河内磐船駅周辺に広がる遺跡です。古墳時代中期以降に鍛冶炉が多数建造され、全国的にも珍しい大規模な鍛冶工房だったようです。

それまで朝鮮半島から招いた鍛冶技術者（韓鍛冶）に頼っていた製鉄技術ですが、森遺跡の操業には古墳時代前期に確立した日本独自の鍛冶技術者（倭鍛冶）も配置されていたとみられ、飛鳥時代に操業を停止する約150年で日本の鉄文化に大きな影響を与えた場所でした。

ちなみに、「この「磐船」の地に残る天孫降臨伝説



交野市森南。JR河内磐船駅から徒歩すぐ。

は別話にもあるとおりですが、その随行者の中に「倭鍛冶の祖」とされる「天津真満（あまつまうら）」の名があることははたして偶然の一致なのでしょうか？

交野ヶ原中部

田口の山田神社

枚方市には山之上と田口に「山田神社」があります。本書で紹介するのは田口の山田神社です。

毎年十二月になると、

神社氏子総代で勸請縄（かんじょうなわ）と呼ばれる巨大注連縄が作られ、正月に境内に飾られます。この注連縄は、氏地を十組に分け、毎年輪番で作成されます。重さは約百貫あり、かつては村の若者たちで神輿のように担いで伊勢音頭を唄いながら町内を練り歩きました。集落の魔除けや豊作を祝う勸請縄は現在も作られており、昔より



は大分と小ぶりになったそうですが、枚方市内に残る珍しい風習なので、一見の価値あります。

枚方市田口1丁目。京阪バス「田ノ口中央」下車徒歩4分。

交野ヶ原西部

禁野車塚古墳

禁野車塚古墳は全長110mの国指定史跡で、枚方市内屈指の大型前方後円墳です。

奈良県の箸墓古墳と特徴が一致する相似墳であり、出土物からもヤマト王権との繋がりが垣間見



える古墳ですが、「ノツ千（ツチノコ）」が住んでいて祟りがある」という伝説があり、筆者が小学生の頃は、この場所に来て、生い茂る草をかき分けてノツ千を探したものでした。

余談ですがこの古墳、東西の中心線を東方向に伸ばしていくと、ちょうど京田辺市の甘南備山に行き当たります。甘南備山は古くから神が棲むと云う神の山。山神と言えは思い浮かぶは「オオヤマツミ」ですが、その妻である草の神「カヤノヒメ」の別名は確か…。

枚方市宮之阪。京阪電車宮之阪駅から徒歩4分。